

質 問 内 容	答 弁 内 容
<p>一 予期しない妊娠への対応等について （一）多くの相談が寄せられている現状と施策効果について 道の委託事業として昨年12月に開設された「にんしん SOS ほっかいどうサポートセンター」へ寄せられた相談件数は、本年7月までに1,000件を超えています。これほど多くの相談が寄せられている現状について、知事はどのようにお考えでしょうか。また、これまでの施策効果をどのように分析しているのか、併せて伺います。</p> <p>（二）ワンストップ型支援の必要性と意義について 道が委託しているのは平日夜間と土日祝日の相談窓口です。それ以外にも、社会福祉法人では独自に24時間365日の相談対応、居住スペースの確保や同行支援といったワンストップ型の支援を行っています。 各部審査で、ワンストップ型支援を行っている事業所は委託法人だけと答弁されました。知事はワンストップ型支援の必要性と意義をどう考えているかお答えください。</p> <p>再一（二） こうした活動が重要と答弁いただきました。もし、このようなワンストップ型の支援事業所が道内に一つもなければ、どのような影響があるかお答えください。</p> <p>【指摘等】 こうした相談窓口が必要だという認識だと理解しました。</p> <p>（三）行政機関等への相談しづらさの解消について 一方、道立保健所は女性の健康サポートセンターを設置しています。こちらでは、平日日中帯の相談を受け付けているが、昨年度、こちらに寄せられた</p>	<p>【知事】 相談支援についてであります。道では、これまで、道立保健所に女性の健康サポートセンターを設置し、予期せぬ妊娠などで孤立した方の相談に応じてきたところでありますが、経済的な困窮やDVなど、様々な悩みを抱える若年妊婦の方などが増えており、こうした方々を孤立させないことが重要との思いから、相談機能を強化するため、昨年12月に「にんしん SOS ほっかいどうサポートセンター」を設置したところです。 このセンターでは、電話による夜間及び休日の相談対応のほか、SNSを活用した24時間の相談を受け付けており、この取組を若い世代の方々に知っていただけるよう、様々な場を活用しながら、幅広い周知に努めてきたところであり、こうした活動が、若年妊婦をはじめとした困難を抱える方々への寄り添った必要な支援につながっているものと考えております。</p> <p>【知事】 相談支援の在り方についてであります。予期せぬ妊娠などに悩む若年妊婦等の方々は、複雑な問題を抱える場合が多く、生活の場所の確保や産科医療機関等への同行支援など、個別の悩みに応じて支援につなげる活動は、重要と認識しています。 道としては、にんしん SOS ほっかいどうサポートセンターを委託する法人の独自の活動内容も伺うなど、連携を密にしながら相談支援を進めており、今後とも、委託法人はもとより、市町村や関係機関、様々な民間の支援団体等と連携した、地域での受入体制の確保を図り、相談者の事情に寄り添った継続的な支援に努めてまいります。</p> <p>【知事】 相談支援の在り方についてであります。予期せぬ妊娠などに悩む若年妊婦等の方々は、複雑な問題を抱える場合が多く、個別の悩みに応じて支援につなげる活動は重要と認識しており、今後とも、委託法人はもとより、市町村等と連携した地域での受入体制の確保を図り、継続的な支援に努めまいる考えであります。</p> <p>【知事】 行政機関等への相談についてであります。にんしん SOS ほっかいどうサポートセンターが対応した相談者の方々の中には、行政機関に対する抵抗感</p>

質 問 内 容	答 弁 内 容
<p>妊娠・出産に関する相談件数は1年で104件と、委託法人の相談件数と比較し格段に少ないこととなっております。各部審査で道は、相談件数が少ない要因として「行政機関に対する抵抗感や心理的なハードルの高さ」があると理由を挙げておりましたが、この解消のために何が必要と考えているのかお答えください。</p> <p>（四）道による相談支援体制について</p> <p>にんしん SOS サポートセンターによる今後の支援体制について伺いたいのですが、委託法人による24時間365日の相談事業は道の委託事業のほか、公益財団法人の助成金で運営されています。しかし、助成金は本年度末で打ち切られることが決定しています。</p> <p>本事業の意義についてはこれまでの議論で既に明らかになっています。北海道総合計画に「安心して子どもを産み育てることができる環境づくりの推進」を掲げる知事にとって、現状の相談支援体制の縮小を容認することはあってはならないと思います。道の責任で、24時間365日の相談体制、ワンストップで今行っている支援を実施していく必要があると考えますが、知事の認識を伺います。</p> <p>再一（四）</p> <p>相談支援窓口の事業は高く評価しています。今、「相談支援体制の確保」と答弁いただきました。ただ、今現在窓口を設置している社会福祉法人は、今年度で公益財団法人の助成金が打ち切られるということで、大変苦しい状況です。</p> <p>若い女性が出産後、生まれて間もない乳児の命を奪ってしまう事件が後を絶たない、年間に何回か起きているところです。しかし、相談窓口につながれば、行政につながるができます。行政につながれば、我が子の命を奪うことはない、犯罪者となることもありません。</p> <p>知事は、この事業を続けると決断すれば、相談につながった人の子の命は守られます。親子のその先の人生が紡がれていきます。北海道の責任を果たすという意味でも、来年度も同様の支援を続けていただきたい。知事の考えをもう一度お願いいたします。</p> <p>【指摘等】</p> <p>よろしく申し上げます。</p>	<p>や心理的なハードルの高さを感じている方がおられると伺っているところです。</p> <p>こうした中、女性の健康サポートセンターにおいては、妊娠のほか、不妊治療や思春期の悩みなど、女性の健康相談に総合的に対応してきておりますことから、道としては、気軽に安心して利用いただけるよう、相談者の方々のニーズなども伺いながら、このセンターのより一層の周知に努め、相談体制の充実に取り組んでまいります。</p> <p>【知事】</p> <p>相談支援体制についてであります。にんしん SOS ほっかいどうサポートセンターでは、夜間や休日の電話相談や SNS での相談を年中無休で受けながら、予期せぬ妊娠など、複雑な悩みを抱える若年妊婦等の方々の個別の事情に応じた必要な支援を行ってきています。</p> <p>道としては、こうしたサポートセンターの取組と併せ、委託法人による独自の活動についても意見交換を行い、連携を密にしながら事業を進めているところであり、今後とも、若年妊婦等の方々に寄り添いながら、適切に支援を行うことができるよう、相談支援体制の確保に取り組んでまいります。</p> <p>【知事】</p> <p>相談支援体制についてであります。道としては、今後とも、委託法人の活動内容を伺うなど、連携を密にし、予期せぬ妊娠などに悩む若年妊婦等の方々に寄り添いながら、適切な支援につながるよう、相談支援体制の整備に取り組んでまいります。</p>